

阿賀野川

aganogawa E-toko dayori

え〜とこだより



70 年前の蒸しかまど(右端)と現代に甦った蒸しかまど。左端は「ミニ蒸しかまど」。(撮影場所:有)小田製陶所)

もくじ ●

阿賀野川流域の歴史や文化を、これからの時代の「宝もん」へ

「阿賀野川えくすとごだプロジェクト」は、繰り返しお伝えしている通り、「公害発生地における地域再生」を目指して始まった取組です。しかし、現在の日本各地が抱える深刻な課題は地域の「疲弊や衰退」であり、阿賀野川流域を「ロバダン」を通じてヒアリングして回る中でも、多くの方が流域の現状を憂いていたのが印象的でした。

そこで、流域の疲弊や衰退に向き合って乗り越えるために、途中から「阿賀野川エ・ミュージアム」という取組も開始します。そして、様々な流域団体と協働しながら、各地に埋もれていた貴重な資源の数々を掘り起こし、そのうちの何品かは本格的な商品化まで実現しつつあります。

こうした地域の歴史や文化の結晶こそ、低迷する地域の再生に不可欠で、期待も大きい反面、現実的な問題として流域内外の社会にいきかに浸透させていけば良いかが試される段階にきました。現代の日本は長期的な衰退の過程にあり、地域が生き抜く困難な時代に、どのようにすれば社会に必要とされる「宝もん」として受け入れていただけるのか、その試行錯誤を今後も継続していきます。

流域各地で掘り起こされる
様々な「宝もん」の原石を磨き上げ
ふたたび光輝かせるためには…

特集1 地域再発見講座(第11回)レポート――
「高森の丘から眺めた風景」神楽大地の恵々阿賀野山
特集2 地域再発見講座(第12回)レポート――
「冬の上流域(宝もめ)めぐりたび」産業遺構・伝統食未来
特集3 平成25年度ロバダン！レポート――
インフォメーション――

パネル
巡回中

阿賀野川と大地が織りなす光と影

～大河と共に生きてきた半農半漁の地域～【後編】



かつて大河と格闘しつつ新潟平野に豊かな実りの大地を生み出した、阿賀野川下流域の農村地帯。

戦後も発展を続ける中、新潟水俣病が表面化した昭和40年代を境に、地域社会は急速に変容を遂げていく。

2月から下流域の各施設で始まったパネル巡回展も、折り返し地点に差しかかりました。まだご覧になられていない方は、下記のとおり開催しますので、ぜひご覧ください。

●通常パネル展示会場 (※A1サイズ・ミニパネルと同内容)

期 間	会 場	時 間
5/2 ～ 5/18	新潟市東区役所 南口エントランスホール	8:30 - 17:30
5/20 ～ 6/4	新津地域学園	9:00 - 21:00
6/9 ～ 6/20 ※毎週(土・日)休館	新潟県立大学	8:30 17:15



展示風景(新潟せんべい王国 3/12～26)

観覧者の感想

- 高度成長期だったとはいえ、工場排水から起きた公害は悲しく、地域への影響は甚大だった。
- 大河の近くで営まれる農業の苦労は計り知れない。現在の豊かな暮らしは、様々な昔の苦労の上に成り立っていることを再認識できた。
- 阿賀野川と共に生きてきた地域の方々を思いやることが、自らの生き方に生かせればと思った。

●ミニパネル展示会場 (※A2サイズ・通常パネルと同内容)

期 間	会 場	時 間
5/2 ～ 5/18	プラント-5横越店 「横越サロン」	10:00～17:00
5/21 ～ 6/4 *毎週(土・日)休館	松浜本町商店街 松浜こらぼ家	9:00～17:00
6/7 ～ 6/20	高森稲荷神社	屋外終日 (※夜間照明なし)

「阿賀野川え〜とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(通称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え～とこだ！憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域を自然とする「流域自治」の確立へ向けて行動します。

(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第12号はいかがでしたでしょうか？

上流域から出発し下流域へと進展してきたFM事業は、平成 25 年度末をもって阿賀野川流域各地における活動の展開が一通り完了しました。ここまで長期的かつ大きな取組に広がることができるのは、事業の開始当初はまったく予想できず、流域の様々な方々や団体の協力の賜であり、あらためて感謝申し上げます。

平成 26 年度からは、阿賀野川流域全体を活動の舞台として、今後の集大成を意識した新しい形の取組へと移行していく予定となっております。その具体的な様子は次号からお伝えできると考えておりますまで、ご期待ください。

阿賀野川え～とこだより 第12号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2014年3月31日
企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

「阿賀野川え～とこだ！ブログ」
<http://www.aganogawa.info/>



リニューアルまであと一歩…。



(左上)水車(昭和33年・岡方地区/引用:「写真集ふるさとの百年・豊栄・北蒲原」[新潟日報事業社])、(左下)牛が舟を引く稲刈り(昭和33年・河渡附近/撮影:山口賢俊氏/提供:新潟市北区郷土博物館)、▲高森の大ケヤキと稲荷神社(昭和62年/撮影・提供:宮崎芳春氏)

参加者の主な感想等

- 識者の方々の解説と会場の方々との知識が絡み合って、大変わかりやすく理解できた。(60代)
- いまだに新潟水俣病に苦しむ方がいらっしゃるの、風化させず長く続けてほしい。(北区・60代)
- 歴史があり現在があり、懐かしさと共に高森の過去がよみがえって興味深かった。(岡方・60代)
- 昔の写真と一緒に話を聞くことで、より昔のことが想像できて、とても良かった。(北区・40代)
- 蒸しかまどご飯がとても美味しかった。弁当も少しずつ手の込んだ料理で美味しい。(北区・60代)
- ミニ蒸しかまどの実物を初めて見れた。ご飯が美味しかったことは言うまでもない。(岡方・60代)

レポート2 阿賀野川流域の“豪華な粗食”弁当

～ ミニ蒸しかまどご飯付き! ～

MINI MUSHIKAMADO ミニ蒸しかまど

ニイガタ ids デザインコンペ
ティションにて IDS 賞受賞!

さる3月6日(木)に新潟朱鷺メッセにて表彰式が
開催され、(有)小田製陶所さんが出席されました!



今回の豪華な粗食弁当調理先は…
農家のojiの台所 惣業ダイニング 雉や
11時半～20時 休:日・祝
電話&FAX:025-225-5157
住所:新潟市中央区東中通2-280新潟時報会館1F



シリーズ 地域再発見講座
阿賀野川ものがたり

第11回



高森の丘から眺めた風景

～ 神楽・大地の恵み・阿賀野川 ～

開催レポート!



日時:平成26年2月22日(土)
場所:岡方コミュニティセンター

レポート1 地域の歴史や文化を見つめ直す

～ 懐かしい写真を地元識者と共に振り返る ～

下流域農村地帯の昔の写真や資料の報告会を行いました!
本講座では、地元の識者の方々と共に、下流域農村地帯にて収集した貴重な昔の写真や資料などを振り返りました。
当日は会場の皆さんからも活発なご意見や昔の話などが飛び出して大いに盛り上がりしました。



品田幸一さん



野村光衛さん



高森集落出身のお二人からは、かつての農村地帯の様子や高森いざや神楽の伝統などについて、具体的に解説していただきました。

